

安全安心社会システム研究所



所長 菊池 輝（工学部 都市工学課程 教授）

日常を守り、非常時を支える力は、社会システムの設計から生まれます。本研究所では、防災、生活環境、地域コミュニティ、情報提供、教育・啓発を社会システムとして捉え、災害や事故、人口減少、地域の分断など現代社会の課題を見据えた研究を進めます。人の行動と心理、都市・地域基盤、データ・情報技術を横断的に結び、平時から非常時まで、誰もが安心して判断し行動できる社会の構築に資する実践的知見を科学的に創出します。

研究キーワード

- 交通行動分析 ●交通心理学 ●交通安全 ●安全教育 ●危険認知 ●行動変容 ●リスク認知
- 避難行動 ●地域防災 ●防災教育 ●災害リスクコミュニケーション ●水災害（洪水・津波） ●公共交通
- 地域交通 ●モビリティ・マネジメント ●合意形成 ●住環境評価 ●データ分析 ●シミュレーション
- 視線分析 ●近赤外線分光法（NIRS） ●バーチャルリアリティ（VR） ●点群データ ●慣性センサ
- ミラーリング法 ●ドライビングシミュレータ ●マインクラフト

研究内容

- 災害や交通事故の危険を人がどのように感じ、判断するかに関する研究
- 安全な運転や歩行を支えるための交通安全に関する研究
- 眠気や注意力の低下が運転に与える影響に関する研究
- 災害時の避難行動や情報の伝え方に関する研究
- 子どもたちを対象とした防災・安全教育教材の開発研究
- 学校や地域で行う防災・安全教育の効果に関する研究
- 水害などに備えた、災害に強い地域づくりに関する研究
- 公共交通や生活交通など、地域の暮らしを支える移動に関する研究
- 歩きやすく、安心して過ごせる都市空間づくりに関する研究
- 自治体、学校、地域団体等と連携した安全安心な地域づくりの実践研究



ドライビングシミュレータを用いた交通安全実験研究



モビリティ・マネジメントの取り組み

安全安心を科学し、社会を支える

